

学生の視点から見た元気村！

2018年9月1日：あきた元気ムラ代交流会 2018 IN 湯沢
大正大学 専任講師 出川 真也 心理社会学部 3年 平良 菜月
地域創生学部 2年 佐藤絵里花 人間学部 3年 早川 誠

はじめに

大正大学出川研究室では、「地域創生の教育学」を掲げ、子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象にして地域づくりのための社会教育・生涯学習活動を研究しています。

地域に根ざした教育、学習成果を活用した暮らしや仕事の変革と新たな生業の創出、地域人材育成等に着眼して、農山漁村の活性化に寄与すべく研究・教育・実践活動を進めています。

1. あきた元気ムラ探訪ー若者・学生による取材活動ー

2018年3月に、首都圏連携等を視野に入れながら「あきた元気ムラ・山菜ネットワーク」を①地域集落を基本単位とする生業継承・活性化、②若手担い手人材の地域回帰方策について研究するための初動調査を行いました。

(1) 実施内容

あきた元気ムラ（山菜ネットワーク）加盟地域の中から当調査期間内に取材可能だった以下3地域9地区を対象に実施しました。

1) 南部地域

- ①由利本荘市赤田地区
- ②三ツ方森地区
- ③横手市金井神・上坂部地区

2) 北部地域

- ④男鹿市鮎川地区
- ⑤五城目町馬場目杉沢地区
- ⑥上小阿仁村南沢地区
- ⑦能代市梅内地区
- ⑧大館市山田地区

3) 内陸地域

- ⑨仙北市田沢地区



(2). 調査結果

地域ごとに特徴ある取組が展開していることが確認できました。

- ①由利本荘市赤田地区：加工場拠点と地域協働の集落活動の展開
- ②由利本荘市三ツ方森地区：わらび粉作りを軸とした山林管理プログラム

- ③金井神・上坂部地区：山菜資源の管理と活用・伝承に向けた試み
- ④鮎川地区：名水を活かした特産品づくり
- ⑤馬場目杉沢地区：山村資源と農家レストランによる交流の村づくり
- ⑥上小阿仁村南沢地区：栗林から食用ホオズキまで住民手作り活動の活性化
- ⑦能代市梅内地区：薪・山菜等の森林資源の保全整備と活用
- ⑧大館市山田地区：原木マイタケの取組、各世代が主となる集落運営
- ⑨仙北市田沢地区：女性達の手作り山菜料理の地域づくり



(3) 課題と今後の展望

今回の調査結果から今後以下の取組が求められると考えています。

- ①地域の保全・整備に寄与する交流の仕組みづくり
- ②販売促進につながる消費者側学習プログラム構築
- ③担い手・人材育成方策の検討

2. 都市部・学生運営ショップ「座・ガモール」における連携構想

大正大学の学生運営ショップを活用したあきた元気ムラの PR と都市部若者との交流活性化等を構想しています。

- (1) 学生運営ショップにおけるあきた元気ムラ製品の販売
- (2) あきた元気ムラ製品による料理メニュー開発と学生カフェ提供

3. あきた元気ムラにおける新たな地域プログラム研究開発の検討

あきた元気ムラの多様な地域資源を活かした事業プログラムの開発を検討するため、地域の皆さんとの共同研究を計画しています。

課題解決・保全活用、交流・学習の促進、担い手育成・定着に寄与することを目指します。

